

被覆栽培の目安

令和7年8月

静岡県農林技術研究所茶業研究センター茶生産技術科

被覆の方法



棚がけ
↓
減少



直がけ
↓
増加



トンネル被覆
↓
極一部

※写真は、保温・早出し用の資材を用いたトンネル被覆
※被覆栽培は、黒色寒冷紗等を使用

被覆の方法



棚被覆
↓
少



直掛け被覆
↓
増加

主な被覆資材(化学繊維資材)

遮光率	70～85% (直掛け) ～98% (棚掛け)		
色	黒	白黒	
織り方	カラミ織り	平織り	ラッセル編み
材質	PE (ポリエチレン、軟) PP (ポリプロピレン、硬) 等		

ラッセル編(黒85)



※A資材: 遮光率85%、通気性○

ラッセル編(黒85)



※B資材: 遮光率85%、通気性▲

ラッセル編(白黒85)



※C資材: 遮光率85%、温度上昇抑制○

カラミ織(黒)



※D資材: 遮光率?、軽量○

5

直がけの目安(煎茶の色付け、かぶせ茶)

地域	用途	茶期	遮光率	被覆時期	被覆期間
静岡	色付け	一番茶	70~85%	3葉期~	7日間
		二番茶	〃	2葉期~	5日間
	かぶせ	一番茶	〃	2葉期~	14日間
		二番茶	〃	〃	10日間
鹿児島	色付け	一番茶	60~70%	3葉期~	5~7日間
		二番茶	〃	2葉期~	4~5日間
三重	かぶせ	一番茶	75~85%	2葉期~	14日間
		二番茶	〃	〃	10日間

6

碾茶の棚がけの目安(京都の場合)

被覆時期	位置	資材	遮光率	被覆期間
0.5~1葉期	下段	よしず・こも 寒冷紗	70~80%	10日間
2葉期頃	上段	わら 寒冷紗	95~98%	20日間

※上段被覆時に‘こも’や寒冷紗で周囲を覆う

※5~6葉期(硬化前)に摘採(収量600~800kg/10a)



生葉(本ず)



蒸し葉

7

本ず被覆



寒冷紗被覆



8

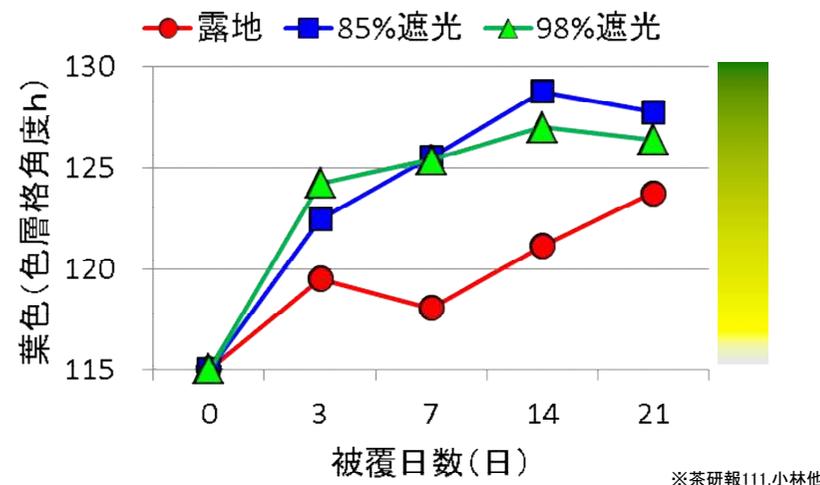
碾茶の直がけの目安(静岡、京都)

被覆時期	資材	遮光率	被覆期間
1. 5~2葉期 (一番茶)	寒冷紗	85%	3週間



9

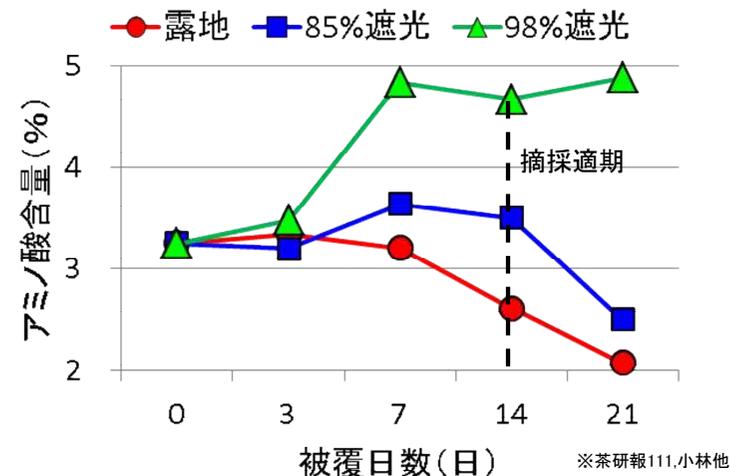
被覆の影響① 遮光率と葉色



- ・遮光後、3日程度で急激に濃緑化
- ・遮光率は85%程度でOK
(遮光率が強すぎると逆に淡緑化)

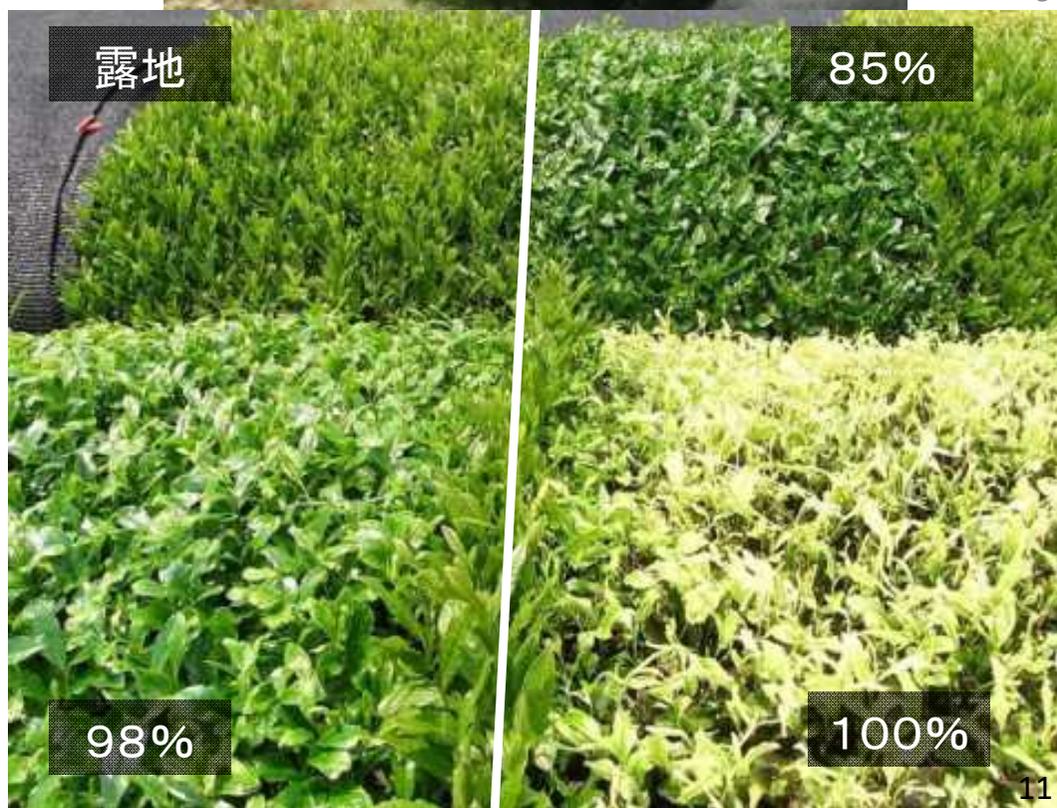
10

被覆の影響② 遮光率とアミノ酸(旨味成分)



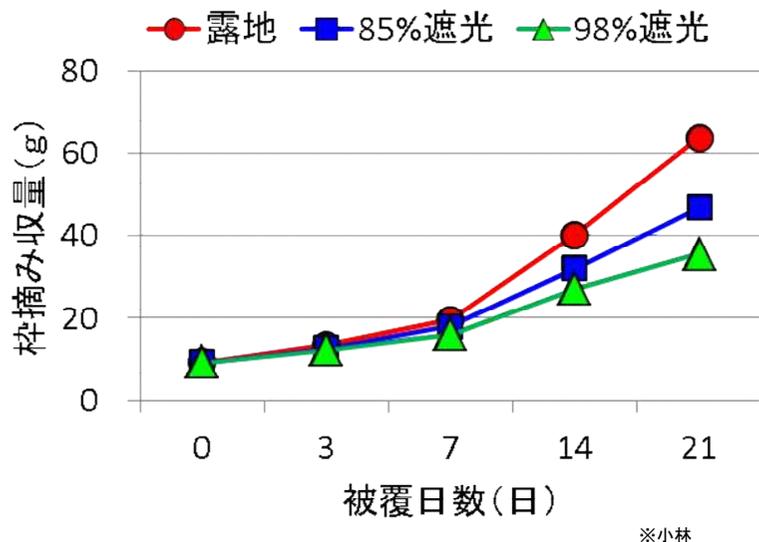
- ・7日程度でアミノ酸が増加
- ・遮光率が高いほど増加
- ・85%遮光は被覆期間が長くなると低下

12



11

遮光の影響③ 遮光率と収量



・遮光率が高いほど収量が低下

13

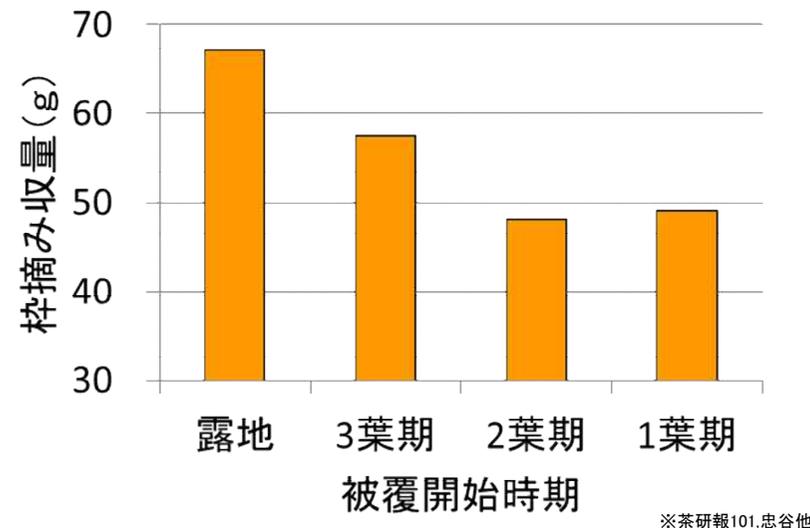
遮光の留意点① 病害虫、葉ズレ

- ・病気(もち病)や害虫(ハダニ等)の発生
- ・強風時の葉ズレ(直掛け被覆の場合)



15

遮光影響④ 被覆開始時期と収量



・被覆の開始時期が早いほど収量が低下

14

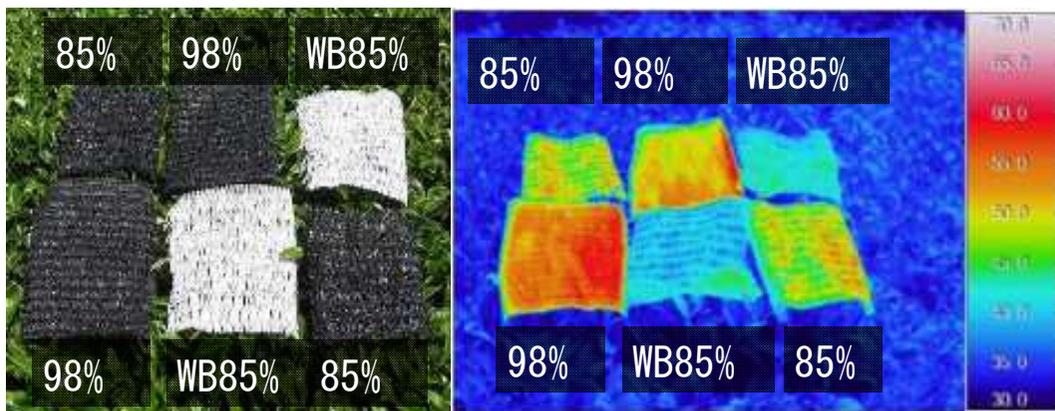
遮光の留意点② 葉焼け(直掛け被覆の場合)



・遮光率が高い黒色資材は葉焼けが発生しやすい

16

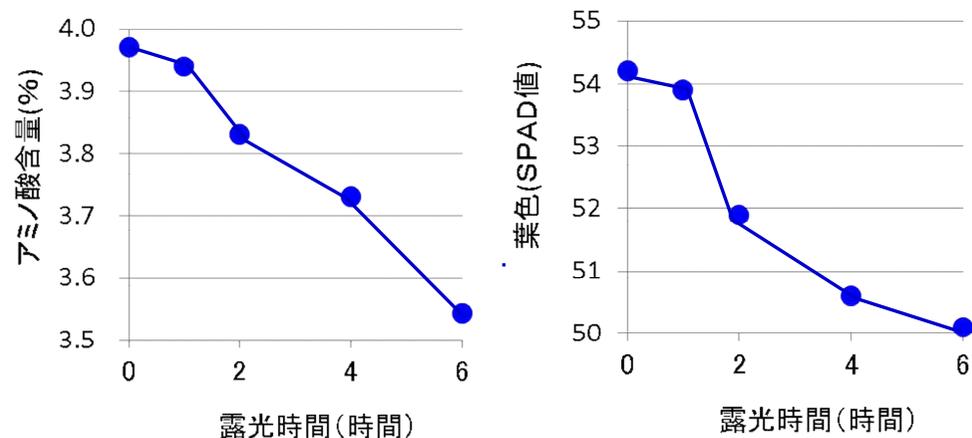
遮光資材の種類と温度



- ・遮光率の高い黒色資材は温度が上昇しやすい
(通気性が悪い、黒が光を吸収)
- ・白黒資材は温度が上昇しにくい
(温度上昇抑制素材を含む、白が光を反射)

17

遮光の留意点③ 被覆除去後の品質低下



※茶研報109, 堺田他

- ・被覆除去後に太陽光を長く当たるとアミノ酸が低下
- ・葉色も退色→被覆除去後1時間程度での摘採が必要

18